

1. 報告要旨

幼い子をもつ一人の母親として、地域でオーガニック給食の動きを起こしたいとの思いから助成金に応募した。子どもたちの身体をつくる「食」、地球の環境とともに歩む「食」について多くの人々が知り考え行動するきっかけとなることを目的とし、上映会を2回実施した。

1回目は5月にオオタヴィン監督の作品『いただきます1 みそをつくる子どもたち』を上映し、74名の方(子ども・スタッフ含む)に鑑賞いただくことができた。会場には、地元の「定林寺立正保育園さんの給食・食育紹介」のパネルと、周辺地域でのオーガニック給食への取り組み事例として「いのちのごはんさんの活動紹介」パネルを作成し、展示した。多くの方が2つの手作りパネルを写真に撮ったり、ご来場いただいた立正保育園の園長先生とお話をされたりと新たな輪を作る機会となった。

2回目の上映会は7月に行った。同じくオオタヴィン監督の『いただきます2 ここは、発酵の楽園』を来場特典つきで2部上映し、合計155名の方(子ども、スタッフ含む)に鑑賞いただくことができた。計画時は「子ども食堂」と協働する予定であったが、途中に「会場選定」等に課題が生じ子ども食堂と全面コラボの形は断念した。しかし、子ども食堂が所属している「市川三郷町子育て・子育て支援ネットワーク」さんの研修会として上映会の運営協力をいただくことができ、地域で子どもたちに関わる多くの方が鑑賞する流れとなった。また食の提供については“夏場の衛生面”での懸念が上がり、「地元の有機なお土産ちょこっとプレゼント」として地元の無農薬のお米やお野菜等を限定150個でプレゼントする形で実現した。1回目と同様の2つのパネルを展示し、新たに「地元の有機な農家さん」の紹介・書き込みパネルを作成し、展示した。

2作品ともに「食」と「保育・教育」の内容として素晴らしい映画であった。「食べたものが私になる」。安心・安全な食べ物を選ぶことは、自分の身体だけでなく地球の環境を守ることにつながる。いのちの多様性を守ることが自分たちの身体を守り、次の世代へつげを回さないことにつながる。”私の伝えたかったことを素晴らしく伝えてくださる映画であり、これらの作品を地域の多くの方が鑑賞して下さったことは尊いことである。特に2回目には、町の組織を巻き込んで開催できたことで、幅広い方に情報を伝えたという大きな意義があったと感じている。アンケートは皆肯定的で、「食の大切さ」を改めて知ることができた」という内容のものがほとんどであった。

今回は上映会の実施をもって個人の活動が終了したが、今後も自分のペースで地域のオーガニック給食に向けたアプローチをしていく予定である。山梨県内でもオーガニック給食への意味を理解し、動きが活発化していくことを心から願う。



定林寺立正保育園さん食育・給食紹介パネル



「地元の有機なおみやげちょこっとプレゼント」

2. 成果物

1. [『いただきます1 みそをつくる子どもたち』上映会](#)、パネル展示: 来場者 74 名 (2025.5.17)
2. [『いただきます2 ここは、発酵の楽園』上映会](#) & 地元の有機なお土産ちょこっとプレゼント: 来場者 155 名 (2025.7.26)
3. 「定林寺立正保育園さんの給食・食育紹介」パネル
4. 「いのちのごはんさんの活動紹介」パネル
5. 「地元の有機な農家さん」の紹介パネル、書き込みパネル